

# 2020年、その先へ。

『持続的な発展と変革に向けて～中期経営計画2017(2015年度～2017年度)』を策定いたしました。  
本計画を着実に遂行することにより、将来にわたる持続的な成長へとつなげてまいります。

## ～持続的な発展と変革に向けて～ 中期経営計画2017の概要

### 目指すべき企業像

- 揺るぎない信頼の獲得と、魅力ある企業を目指す。
- 新たな価値を創造し、社会の課題を共に解決できる企業を目指す。

### 基本方針

- 持続的な発展に向けた人財の育成と活用
- コア事業である建設事業および開発不動産事業における高収益企業基盤の確立
- 持続的な発展を目指した新たな事業展開への取組み

### 主要施策

- 『お客様』～ “さすが西松!任せて安心!”という揺るぎない信頼の獲得
- 『社員』～ 多様な“人財”が継続的に活躍できる環境整備
- 『協力会社』～ 強固なサプライチェーンの構築による“Win-Win”
- 『株主・投資家』～ 戦略的なIR活動による“西松ファン”の拡大
- 『地域社会』～ “感謝と交流”を理念とした豊かな共生社会の実現

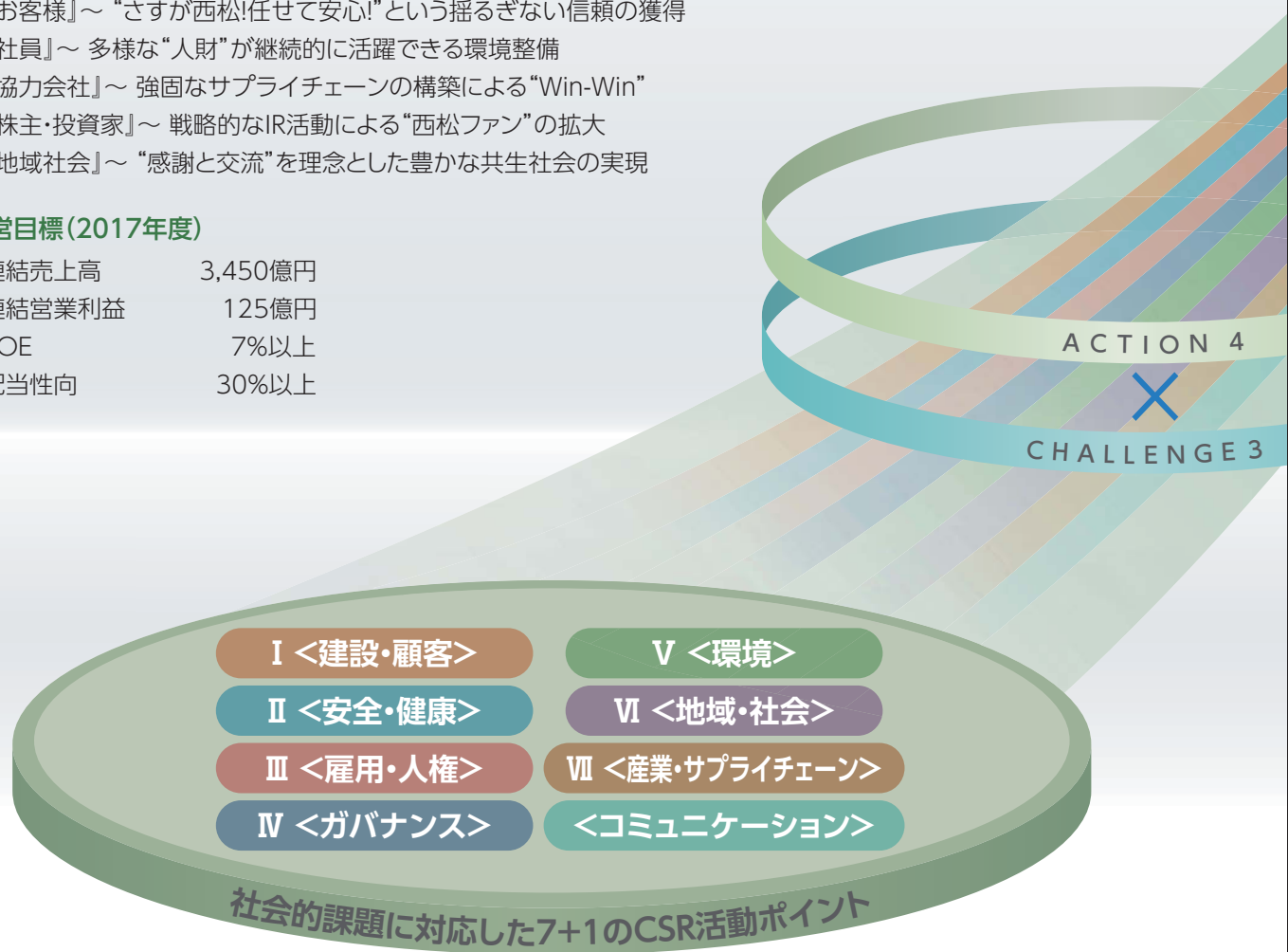
### 経営目標(2017年度)

- 連結売上高 3,450億円
- 連結営業利益 125億円
- ROE 7%以上
- 配当性向 30%以上

### 新コーポレートスローガンの制定

### 未来を創る現場力

2015年5月に、新しいコーポレートスローガン「未来を創る現場力」を制定しました。当社の強みである現場力とは、現場におけるきめ細やかな施工管理能力と、現場に潜む様々な課題を自ら発見し、自ら解決するチカラです。



## すべてのステークホルダーとの Win-Winの関係構築

### N-VISION 2020



### 中期経営計画とCSR / CSR活動との関連づけ

過去3年間の中期経営計画2014を振り返り、また建設業界を取り巻く外部環境を勘案した上で2015～2017年度の3年間の経営目標／指針である中期経営計画2017を策定いたしました。その中で目指すべき企業像の一つとして、「新たな価値を創造し、社会の課題を共に解決できる企業」と定めています。

その根底にある考えは、西松建設の事業活動は「安心して暮らせる持続可能な社会・環境づくりに貢献する」という企業理念です。そのためにすべてのステークホルダーとWin-Winの関係を構築することが、当社のCSR経営方針につながるものです。

中期経営計画2017には財務目標と財務諸表に現れない非財務目標があります。企業が持続的に発展するためには、営業利益等の財務目標の達成はもとより、非財務目標の達成に向けて環境活動や人財育成等の事業活動の根幹となる施策を確実に遂行していくことが不可欠です。当社ではこの非財務目標をCSR活動目標としています。

CSR活動目標は、2020年の会社のあるべき姿を描いた<N-Vision2020>に基づいており、さらに我々はその先を目指して一步一步前に進んでいきます。

## ステークホルダーの期待に応えるCSR経営

2010年度から取組んできたCSR経営が、社会貢献を初め徐々に社員の日常の一部として根付き、活発に実践されつつあることを実感しています。

今後、ステークホルダーの皆様とのWin-Winの関係をさらに進化させていくために、「自分たちに何ができるのか」本質をよく考え、スピード感をもったCSR活動を進めてまいります。

将来、有意義な取組みで当レポートが埋め尽くされるよう、ますます活動の輪を広げてまいります。



執行役員社長室長

荒井 修

## CSRマネジメント

### 3年間の振り返り、7+1の主要な取組みに関する3年間の成果報告

建設・顧客	発注者からの工事成績点高評価に取組んでいますが、目標とするレベルまでは届いていません。顧客満足度を測るお客様アンケートについては各事業本部が継続実施しています。
安全・健康	労働災害件数がなかなか減らないという現状のもと、2015年度より安全環境品質本部を新設して体制の強化を図ります。 長時間労働の解消などの労働環境改善については顕著な改善は見られませんでした。社員のワークライフバランスを良好に保つべく、今後も重要課題と認識の上、継続して取組んでいきます。
雇用・人権	各種の研修で社員の能力アップに努めました。 社内におけるCSR活動の周知、社員のモチベーションに寄与するCSR表彰制度を設立しました。2015年度に第1回表彰を行います。
ガバナンス	業界トップクラスの充実した体制を維持しています。
環境	2011年レポートに掲げた日経リサーチによる「環境経営度指標ランキング(非製造業、建設業)」1位を目指すという目標に対して、なかなか順位が上がっていかないのが現状です。安全と同じく、2015年度より安全環境品質部を本部として体制強化を図ります。
地域・社会	北日本支社東北支店で、東北の皆様を明るい笑顔で包み込む「ひまわりプロジェクト」を継続して開催しています。他支社においても、地域社会に寄り添った活動を続けています。
産業・サプライチェーン	N-NETとの適正かつ強固なサプライチェーンを構築しています。2015年度には上級職長の手当を4倍に引き上げ、建設業に携わる方々の待遇改善および上級職長数を増やすことに努めていきます。上級職長が増えることによる現場の施工管理、安全管理のレベル向上を目指します。
コミュニケーション	2012年は社員とのダイアログ、2013年以降は外部有識者をお招きしたダイアログを開催しています。また2014年度には、家族を職場に招くファミリーデーの企画を、関東土木、関東建築支社にて初めて開催しました。子どもたちの明るい笑顔により、社員と家族、社員同士の一体感がより高まりました。今後は全社にこの活動を拡大して継続していくように考えています。

## 中長期目標の見直し

2015年度CSR目標について、全面的に見直しを行いました。

西松建設はCSR経営を実践しており、「CSR活動とは、会社の事業活動そのものである。」と考えています。当社の企業理念である“持続可能な社会・環境づくりに貢献する”ために、我々は持続的に成長・発展し続けることが使命であり、そのためには、数値目標・戦略を立案し、達成に向けて組織が一丸となって邁進することが求められます。その前提となる考えは、すべてのステークホルダーとWin-Winの関係を構築することであります。

計画の遂行、目標の達成により企業が持続的に発展し続け、その結果が持続的な社会貢献につながり、企業価値が向上し、企業の継続性が担保されるという、CSR

理念の裏づけとして、CSR目標と中期経営計画2017、品質／環境マネジメントシステム目標、安全目標を整合させました。

また、取組んでいくと決めた事項が「すべてのステークホルダーとのWin-Winの関係構築」という当社のCSR経営方針に合致しているかを検討しました。これらの全面的な見直しの結果、7+1のCSR活動ポイント、2020年のあるべき姿<N-Vision2020>の内容を、2014年と比較して一部改定しています。

CSR活動とは特別な活動ではなく、会社の策定する中期経営計画、安全品質環境目標等に向けて取組んでいくことがCSR活動であるという理念を、しっかりと社内浸透させたいと考えています。

社会的課題に対応した7+1のCSR活動ポイント	想定する具体的なステークホルダー	CSR経営として対応すべき事項	2020年のあるべき姿<N-Vision2020>	関連アスペクト (GRI第4版)
I<建設・顧客> 良質な建造物による価値創造 顧客満足度の提供	顧客、ユーザー 社会	・品質・技術について ・お客様への対応について	◎最高水準の施工・サービス品質の追求 ◎すべてのお客様の最上満足度の実現	顧客の安全衛生 製品およびサービスのラベリング
II<安全・健康> 安全な産業の実現 適正な労働環境整備	社員、顧客 協力会社ほか	・現場の安全について ・就労者の健康について	◎労働災害ゼロの実現 ◎長時間労働の解消と快適職場の実現	労働安全衛生 労働慣行に関する苦情処理制度
III<雇用・人権> 働き続けられる職場づくり 公平・公正な雇用の創出	社員 社会	・人材の育成について ・雇用の場について	◎持続性確保に向けた人的資源への積極投資 ◎人材の定着に向けた社員満足度の向上	研修および教育 非差別
IV<ガバナンス> 適正な企業活動 適切な情報開示	投資家、株主 社会	・コーポレートガバナンス ・コンプライアンス ・リスクマネジメント	◎説明責任に対応したコーポレートガバナンスの確立 ◎業務と組織の見える化による信頼確保 ◎コンプライアンスの徹底 ◎徹底したリスク管理による事業の継続性と信頼確保	腐敗防止 反競争的行為 コンプライアンス
V<環境> 地球環境の次世代への継承 循環型社会への対応	環境 社会	・環境保全の取組みについて ・環境技術開発と有効活用	◎環境経営先進企業に向けた取組み ◎環境コンプライアンス維持基盤の確立と永続的な継承 ◎環境ソリューション事業の積極展開	エネルギー製品 およびサービス コンプライアンス
VI<地域・社会> 地域・社会への貢献 大規模災害への対応	社会 地域コミュニティ	・社会貢献活動の推進 ・大規模災害への対応	◎企業市民としての積極的社会参加 ◎事業スキルを活かした貢献	間接的な経済影響 地域コミュニティ
VII<産業・サプライチェーン> 建設産業の発展 協力会社との適正な関係構築	協力会社ほか 産業界	・建設産業発展への寄与 ・CSRパートナーシップの醸成	◎適正なCSRサプライチェーンの構築	サプライヤーの 環境評価 サプライヤーの 労働慣行評価
<コミュニケーション> CSR発展に向けた コミュニケーション 社会に対するCSRの説明責任	全ステーク ホルダー	・CSRコミュニケーションの推進 ・CSRアカウンタビリティの確保	◎CSR活動の積極的発展 ◎CSR活動の適切性確保	(関連アスペクト) なし